

平成28年度 見附市算数・数学部 活動報告

部長 藤田 優太

1 研究主題

全国学力・学習状況調査の誤答を活かした授業改善

2 研究の概要

- 日時 平成28年8月22日（月）
- 会場 見附市立見附小学校 会議室
- 内容 「全国学力・学習状況調査の誤答を活かした授業改善」
講師 燕市教育委員会
指導主事 佐藤 満 様

3 研究の実際

講話 「全国学力・学習状況調査の誤答を活かした授業改善」

内容 ① 育てたい学び方

② 授業の達人と型

③ 全国学力量学習状況調査の分析

- ・全国学力量学習状況調査の問題から、誤答の多い問題についてグループ討議。
- ・誤答の多い問題に対して、どのような指導を行えば良いかグループ討議。

4 成果

- 授業を行う上で子どもたちが身に付けておくべきスキルについて「手の挙げ方は天井に突き刺すように。」「発表する人は大勢がいる方を向き、聞く人は発表している人の方を向いて。」「発表した人には拍手をする。」など、具体的に子どもに指示を出すことが大切であるということを教えていただいた。
- 授業の達人と呼ばれる先生方は、それぞれに授業の型をもっている。①導入の課題提示では子どもたちに問いをもたせる。（問いから学習課題を設定する。）②解決の見通しを持たせる。③自力解決場面 ④発表場面（グループ・ペアなど、発話量を考慮した形態の工夫）⑤終末場面（まとめ・ふりかえりなど）ある程度の型をもって授業を進めることが大切である。型があることでゴールがはっきりし、子どもたちは安心して授業に臨むことができることを教えていただいた。
- 全国学力・学習状況調査の誤答を分析すると、履修学年や分野が多岐に渡っていることが分かる。5年生の内容だけでなく、低・中学年の頃からの積み重ねが大切になることを意識しながら、算数授業に臨む必要があることを確認することができた。